

買ったもの全てについてくる税金。なくなればいいのにと私は頭の片隅で思っていた。教科書や黒板、机や椅子といった学校で使っている物には税金が使用されていることは知っていたが、私は学校以外の場での税金の使われ方は知らなかった。そのため、数少ない税金の使い道しか知らない私は、本当に私たちのために税金が使われているのだろうか、と疑問に思っていた。

しかし、私は祖父との体験を通して税金のありがたさを感じる経験をした。私の祖父は四年前までは山にも一緒に登ったり、家の近くを散歩したりできていたが、それが徐々に一つ一つの動作が遅くなってきた。そのため病院で診断してもらくと、指定難病の進行性格上麻痺という病気であることが分かった。名の通り、祖父に会いに行くと、この前会った祖父と違い病気が進行しているのが目に見える。この前は椅子から立ち上がることはできていたのに、今はそれさえも難しくなっているのだと思うことなどが会うたびにあって、したがって、祖父は日常生活を送ることが日に日に難しくなっている。それと同時に祖父の家に増えていくものがあった。それは、車いすや手すりなどの介護用具や福祉用具だ。それらを買うには多額のお金が必要であると思っていたので、父にどのくらいの費用なのかを聞いてみると無料で貸し出してくれているのだという。また祖父は最近、デイサービスをうけている。これは特定医療費助成制度と呼ばれる制度によって費用をおさえられているらしい。

その費用はどこからきているのか不思議に思い調べてみると、それは国が負担してくれていることが分かった。国の医療費からその費用はでていた。そして驚いたことに、医療費の約四十パーセントが、なんと税金で構成されていたのだ。祖父が使っている用具一つ一つには私たちの税金が使われていて、デイサービスも私たちの税金で支えられていたのだ。

これまでは、税金の使い道に不安を感じていたこともあったが、このような体験をした今、私のなかで税金は私たちの生活を深く支えてくれているものであるという認識が変わった。税金で助かっている人が祖父以外にもいると思うと嬉しい気持ちでいっぱいになる。不幸中の幸いにも私にはこのように税金の使い道について知る機会があったが、そうでない人も数少なくない。そのような人たちに税金が色々な場所で使われていることを知ってもらうにも、税金の使い道を私はなお一層強く示していくべきだと考えるようになった。

昨日、今日納めた税金、そして明日納める税金で救われる、つながる命があるのなら進んで税金を今の私は出したい。